

科研費改革について  
学術システム研究センターからのメッセージ

科研費改革説明会

学術システム研究センター所長  
佐藤 勝彦



JAPAN SOCIETY FOR THE PROMOTION OF SCIENCE

日本学術振興会

# 科研費は、学術研究者全員で、作り上げるもの

## 学術研究者コミュニティ

### 科研費応募者

自ら設定した研究課題を研究計画調書に記載し、応募する

### 科研費審査委員

科研費に採択された研究者が審査委員候補者名簿に登録され、そのなかから審査委員が選考される

### 学術システム研究センター

審査方式や審査区分等の改革等、制度運営全般の提案と助言  
審査委員の選考、審査の検証、審査会の運営等

- 応募者は、科研費を獲得したときから、審査委員候補者として登録される。
- 審査委員に指名されたときには、特段の理由のない限り、引き受けることが科研費をよりよいものにするため、極めて大事。
- 研究者全員が、学術的価値のみで審査するピアレビューを構築する。

## なぜ科研費改革が必要なのか

### 【科研費】

- 既存の分野のみならず勃興する新たな分野においても**研究者の自由な発想に基づく学術研究**を支援
- 研究者が建設的相互批判の精神に則って相互に審査しあう**ピアレビューを基本**
- 現行の審査制度は膨大な応募件数を迅速に審査する**公正かつ適切な仕組み**

しかし、科研費の応募件数は年々増加し、応募動向も徐々に変化

変化する学術動向に対応し、競争的環境の下で優れた研究課題を見いだすことができるよう、審査の方式の改革が必要

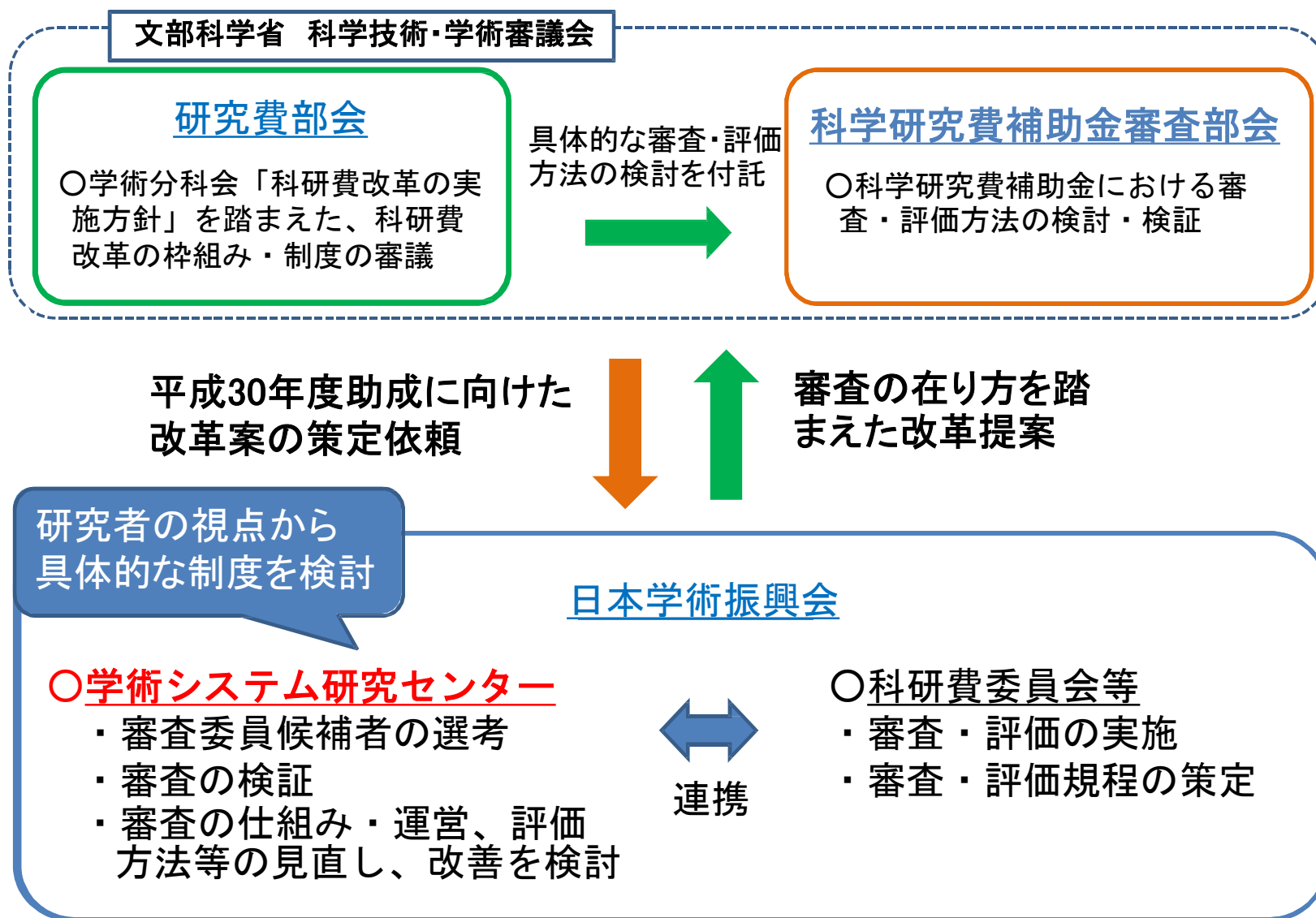
研究者自身が主体的に  
改革に取り組む



- 学術の一層の振興のために不可欠
- 研究者が社会に果たすべき責務

学術システム研究センターにおいて平成30年度科研費に向けて、審査区分及び審査方式の見直しを行った

# ～今回の科研費改革の経緯～



# 学術システム研究センター (平成15年7月設置)

## 学術システム研究センターの業務

- 審査方式や審査区分等の改革等、制度運営全般の提案と助言
- 審査員候補者の選考、審査の検証、審査会の進行等、審査・評価に関する業務に参画

## 研究員の特色

- 研究員はすべて非常勤
  - \* 第一線で活躍するトップレベルの現役の研究者が就任
- 任期は3年とし、研究者の流動性を確保
  - \* 研究者の様々な声を業務に反映
- 審査・採択そのものには一切関わらない
  - \* 厳正で透明性の高い評価システムの確立に寄与

## 組織図



# 学術システム研究センター 平成29年度主任研究員



## 【特命事項担当】



山本 智  
(東京大学)

## 【人文学専門調査班】



田中 雅一  
(京都大学)



野村 真理  
(金沢大学)

## 【社会科学専門調査班】



仲 真紀子  
(立命館大学)



阿部 顕三  
(大阪大学)

## 【数物系科学専門調査班】



永原 裕子  
(東京工業大学)



小島 定吉  
(東京工業大学)

## 【工学系科学・情報学専門調査班】



尾辻 泰一  
(東北大学)



二羽 淳一郎  
(東京工業大学)



岡部 寿男  
(京都大学)

## 【化学専門調査班】



八島 栄次  
(名古屋大学)



君塚 信夫  
(九州大学)

## 【農学・環境学専門調査班】



植田 和光  
(京都大学)



恒川 篤史  
(鳥取大学)



白須 賢  
(理化学研究所)

## 【生物系科学専門調査班】



石野 史敏  
(東京医科歯科大学)



巖佐 庸  
(九州大学)

## 【医歯薬学専門調査班】



伊藤 裕  
(慶應義塾大学)



清野 宏  
(東京大学)



大段 秀樹  
(広島大学)

## 主任研究員を経験して



### 縁の下の力持ち

**野村 真理**

学術システム研究センター？ 何、それ？  
いまだき「学振」や「科研費」を知らなければ、研究

金沢大学

学術システム研究センター？ 何、それ？  
いまだき「学振」や「科研費」を知らなければ、  
研究者としては潜りを疑われても仕方がない。  
それが「学術システム研究センター」となると、  
話は別である。何を隠そう私自身「何、そ  
れ？」の1人だった。

特別研究員制度や国際学術交流、学術振興会賞、  
育志賞の査読など、学振が行うほとんどすべての事  
業にかかわり、業務は多忙を極める。主任研究員の  
場合、センターへの出張は年間30数回に及ぶだ

私が感動し、尊敬すら感じたのは、所長、副所  
長以下、研究員全員が日本の学術研究を支え  
る縁の下の力持ちであることに使命感を見出  
し、非常に仕事熱心なことだ。

に仕事熱心なことだ。私もまたこれまでセンターの  
仕事に携わられた先輩方に続き、微力ながらも  
課せられた使命をはたしたいと思う。

## 学術システムセンター パンフレット(2017年度)より抜粋



### 裏方に徹する

**八島 栄次**

名古屋大学大学院  
工学研究科教授  
化学専門調  
[平成27年4

科研費を申請し、その結果に一喜一憂しつつ、分厚  
い研究計画調書の審査も当然の仕事と思いやって  
きた。だが、この一連の審査システムに思いを馳せ

一連の審査システムに思いを馳せたことは  
なく、我々と同じ現役の研究者が携わって  
いることを本センターの主任研究員になっ  
て初めて知りました

職員が、審査・評価システムの改善と新たな科研費  
の提案・審査システムの改革に向けて、白熱した  
議論を闘わせています。予算には限りがあり、出来  
ることにも限界があることは承知の上で、学術の  
根幹を支える我々研究者のための研究費であると

予算には限りがあり、出来ることにも限界  
があることは承知の上で、学術の根幹を支  
える我々研究者のための研究費であるとい  
う確固たる信念を崩さず、裏方に徹する  
姿勢には感銘を覚えました。

した。2年経ち、漸くセンターの仕事にも慣れ、  
愛着とやり甲斐も感じつつあります。危険な兆候  
です。ただ、この仕事をしなかったら出会うことも  
なかった異分野の方々との雑談は結構楽しく、残り  
1年乗り切る気力が湧いてきます。





最後に、もう一度...

## 科研費は、学術研究者全員で、作り上げるもの

### 学術研究者コミュニティー

#### 科研費応募者

自ら設定した研究課題を研究計画調書に記載し、  
応募する

#### 科研費審査委員

科研費に採択された研究者が審査委員候補者名簿に  
登録され、そのなかから審査委員が選考される

#### 学術システム研究センター

審査方式や審査区分等の改革等、制度運営全般の提案と助言  
審査委員の選考、審査の検証、審査会の運営等